

先日行われた東大研修。一日目に行われた笹川平和財団・日本財団の方々主催のディレクトフォース、そして企業訪問研修や仙台二高のOBやOGの方々との懇談会。2日目に行われた東大研修。この二日間で進路を考えるにあたってのとてもいい体験ができたと思う。

まずは初めにあった笹川平和財団・日本財団の方々によるディレクトフォースだ。特に私にとってもいろいろとためになったグループセッション。一人目の慶応義塾大学経済学部であり、三菱銀行や英国大手銀行などの主に国際金融の仕事に関わってきた吉田文一さんは主に金融を通して見る日本の将来についてのお話をしてくださった。「日本には約二千年ほどの歴史があるが、目まぐるしい発達を遂げたのはここ200年ほどのことである。時と空間が交差した局面で長い目で物事を見ることが大事であり、そこからいろいろな物事が生み出されるのだ。」というお話や、「日本人は、日本は現在落ちぶれてきていて、世界的にも高い水準の経済国家から外れようとしているという考えの人が多いが、未だGDPでは世界三位であり、世界掲載の約一パーセントは日本が握っている。水域を合わせた国土面積は世界十位であり、全人口が世界十位、日本語を話す人口も世界九位と、三つにおいて世界のベストテンにはランク入りしている。まだまだ日本は世界経済の中心になっていける国であるし、戦争、テロや環境破壊などの問題についても、寛容な心や共生の意、思いやりやおもてなしなどの概念がある日本人が先進して取り組んでいくべきだ。」など、日本という国がしていくべきことについて深く考えることができた。

二人目はケンブリッジ大学教育学部卒で、現在財団で国際案件の奨学金や日系社会支援のプロジェクトなどを担当している大久保郁子さんのお話をいただいた。「日系社会支援の仕事というものでは、南米の建築系の支援をしたり、戦争時にフィリピンにいた日本人（フィリピン残留孤児）の国籍回復の支援などをしてきた。特に国籍回復においてはいろいろな経験をするのができた。日本国籍がなくても私生活には支障がないそうだが、親の墓参をしたいという理由や、死ぬときには日本人として死にたいという思いをしてたそう。相手の立場から世界を見ることがとても重要だと感じた。そして財団の仕事というものは、支給されたお金を助成事業などで使い切らなければならない、利益が出る仕事ではないから、目標が見えにくいというのはとても辛いときもある。それでも、外国でいろいろな体験をすることができるし、やりがいはとても感じている。」という話から、世界には自分が知らない景色、知らない人々が存在していて、価値観も見ている世界も違うんだなと感じた。相手の立場になったつもりで対応していくことで打ち解けていくことができるんだろうなと思った。

三人目は元コンビニ会社のサークルKサンクス執行役員などを務め、現在日本郵政の経営アドバイザーであり、中国を中心とした流通業支援活動に携わっている金子祥三さんからお話をいただいた。「日本の技術を世界に発信していきたい。Made in Japanを信頼している国は多い。そのうえ日本は通関制度のような物流の手段がとても進歩した国である。日本では当たり前前の通関のようなものを世界中へ発信していきたい。そのためにやってきたことといえば相手の立場や気持ちになって考えること（マーケットインプロダクトアウト）や地方のいところを作っていくことが重要だ。そんな日本のローカルをプロモーションしていく。売れなければいいものは伝わっていかない。そのためにも若いうちから好きなものを持ち、そこから関連付けたいろいろなものに興味を持ち、深めていくことが大事だ。そうすれば世界に通用するようなものを作るアイデアを持つことができる。」この話をいただいたあとに金子さんから質問があった。「例えば宮城県が誇れる文化って何かあるかい？」それに私が七夕じゃないかと答えたところ、「それをどうやって世界にプロモーションしていくか。それを考えていくことが一番大事だ。頑張って世界に七夕を広めていってくれ。」こんな一節のやり取りだったが、私は大きな勇気を貰うことができた。自分にだって世界に通用するようなものを伝えていく手段は持ち合わせている。SNSを活用するのもいいし、PVのようなものだって作れるだろう。そんなアイデアを考えて、実践する。そのような物流の世界にも興味湧く話であった。

四人目は日本大学法学部卒であり海洋管理のプロジェクトや事業企画全般などの海洋関係の仕事に財団で従

事している酒井英次さんからお話をいただいた。「大学を卒業した後はヨットをしていたこともあって、ヨット関係の仕事に就こうとしていたが、その会社がなくなってしまって中止になってしまった。それから海の仕事という広い括りで仕事をするようになった。海は陸と違い明確な国境の区別がなく、全世界の海水は共同の資源だから海をどのように守っていくかのルールを作らなければならない。そして周辺国と協力して管理をしていかなければならない。政府の動きは外交などで制限されるために、代わりに研究所がルールを作り管理をする。海の環境は80年で悪くなってしまうので、今から管理の仕組みを整えてきれいで豊かな海を保持するために精進していかなければならない。」

四人の方々から話を頂いたが、全員の話に共通することはグローバルで物事を考えるのが大事だということだ。どんな分野の仕事においても世界を理解し仕事に取り組んでいくことがこれから求められていくのだと思う。そのためにも勉強を続けていきたいと思う。

企業研修訪問では東京医科歯科大の小児科医師である森尾教授にお話を頂いた。「感染症は敵だという思いのもとに小児科へと進んだ。生物と科学、そして数学力が現在の開発には必要とされていて、それを機会に落とし込む工学系との連鎖開発が重要になる。そのためには自分のしたいことが示せないといけない。時間がかかるため、論文から重要なところを探し出す能力も大事である。直接研究のチームと会い、そのコミュニティを作っていく。私の研究では多種あるガンの原因となる幹細胞を見つけようとしている。それはまだ二種類ほどしか見つかってない。特徴を見つけようとしているんだ。医師を目指す人たちに必要となる能力は楽しむこと、趣味を持つこと、かみ砕いて説明する能力を持つこと、何よりも概念も技術もとてつもないスピードで変化していく医療において勉強を続けていけることが一番大事だ。今の医療に対して不安な部分は地域差が激しいことや外科の医者が少ないこと、女性医師への待遇、新しい薬などの医療費が高いことなどいろいろある。それを君たちの世代で改善してほしいと思う。」この話を受けて、医師への心持ちは大きく変わったような気がする。ずっと勉強を続けていく精神で、何よりも患者とのコミュニケーションを円滑に取れるような医者を目指したいと思う。

大学生の方々から頂いたお話などからも、何事にも興味を持ち、世界を見ることのできる能力がとても大事だと気付かされた。これからの高校生活で、勉強をしながらも、他の多くの物事へと関心を持って取り組んでいくことができればいいと思う。